

帯広大谷短期大学

【ふるさと介護福祉士育成奨学生奨学金】



制度の目標・目的

帯広大谷短期大学は、音更町、十勝管内のニーズを理解した地域型介護福祉士の育成、介護施設等への人材供給を目的とし、音更町と連携して、社会福祉科介護福祉専攻の学生に対する奨学事業を実施している。

当制度創設に至った背景として、音更町における喫緊の課題である介護職員の人材不足への対応が求められていたことが挙げられる。

当短期大学と音更町は、活力ある地域社会の形成及び未来を担う人材育成に寄与するため、2010年度に包括連携協定を締結した。そして両者で奨学事業について協議のうへ、地域の介護福祉施設等への就職を希望する学生の支援、地域の福祉向上、介護職員の人材確保を図りたいという両者の思いが一致した。

これにより、音更町への「ふるさと納税」を活用することで奨学事業の財源を確保し、2015年度に当制度の創設が実現した。

制度内容

社会福祉科介護福祉専攻への入学を強く希望する者で2年間学業に専念し、卒業後、音更町内又は十勝管内の高齢者施設もしくは障がい者施設等で原則として最低3年以上勤務する者が条件である。

2018年度は社会福祉科介護福祉専攻39名のうち33名の学生が対象となった。4か年の利用者は延べ人数で125名、利用率は77%~92%と高い数字を維持している。

実施後の変化

介護人材の確保が厳しい状況の中、当制度を利用した学生が地元の十勝管内介護福祉施設等へ就職することで人材の確保に貢

献している。また、十勝管外からの入学者が十勝管内に就職する実績もみられ、当年度の成果は上がっている。

学生は学費負担が軽減され、アルバイトの時間を学修時間に充てるなど、勉学に集中して励むことが可能となった。

今後の課題・展望

当制度の創設当初は一時的に入学者数が増加したものの、介護職のマイナスイメージ等もあり、地域が望んでいるような増加までには結びついていない現状がある。

介護人材を持続的に確保していくために、当制度の継続的な宣伝及び介護職のイメージアップ等につながる取り組み、キャリアパスの確立等による学生の資質の向上、介護職の処遇改善を一体的に行っていくことを検討している。

区分	内容	支援額
入学金	入学金 20万円から10分の1【短大】	2万円
授業料	納付授業料に10分の3を乗じて得た額の範囲内【音更町】	31万2千円
教育充実費	教育充実費の一部 10分の1【短大】	1万500円
その他	教科書等購入サポート事業【音更町】 (テキスト、参考書等の購入費) 上記の超過額【短大】	3万円以内 全額
	学外施設等実地研修事業 (学外施設等への実地研修に要する旅費) 【音更町】 上記の超過額【短大】	5万4千円以内 全額
	実習着等購入費【短大】	全額

図 奨学事業の内容及び支援額
※【 】は奨学金の費用負担者